

沖縄はヤマトの枠から出て世界の懸け橋に！

～以下、「鐘」（日経新聞 00.7.24）より～

（・・・・・・は中略部分。〔 〕は補足部分。太字は引用者による。）

「沖縄人は日本というチャンネルを通じなくても、世界と往来する能力をもっている」（大城立裕「休息のエネルギー」）

× ×

・・・・・・「琉球弧」をはじめ多様な歴史空間を含む日本列島を**ヤポネシア**と名付けたのは作家の島尾敏雄氏。自立性の強い「**南島自治文化圏**」の設定を提唱したのは谷川健一氏。「**アジア共同体の首都を沖縄に**」と勧めるのは森嶋通夫ロンドン大学名誉教授。いずれも「**ヤマト**」の枠に収まりきれない**歴史や文化を持つ沖縄**の可能性への期待だ。沖縄には本来、〔00年7月の沖縄サミットでの〕単なる会場提供よりもっと大きい役回りがある。アジア太平洋を視野に、国境にとらわれない多彩な“サミット”を自ら主催した方が沖縄には似つかわしい。それでこそ**世界の懸け橋になるという琉球王国の「万国津梁（しんりょう）」の心意気**が今に生きる。